

## 【一病院化による新病院の建設候補地に関する意見について】

1. 募集期間： 令和2年12月28日(月)～令和3年1月15日(金) 19日間
2. 閲覧場所：〔土岐市〕市ホームページ、市役所政策推進課窓口、各支所窓口、保健センター、土岐市立総合病院窓口  
〔瑞浪市〕市ホームページ、市役所健康づくり課窓口、各コミュニティーセンター
3. いただいたご意見の総数： 64名（土岐市受付数 11名、瑞浪市受付数 53名）

いただいた主な意見の概要とそれに対する回答は次のとおりです。

提出された意見	回答
1. 公表されている建設候補地について	
○災害時における搬送経路の確保のため、示された接続道路だけでなく他の接続道路も必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東濃中部の二次医療の拠点病院となることから、救急搬送のための複数の経路を確保することは必須と考えております。新たな接続道路を新設し、複数の接続道路を整備いたします。</li> <li>・候補地は、かつて土砂採取跡地であったところで、礫質堆積層であることが分かっております。今後実施する地質調査の結果により、地盤改良や杭基礎など現場に対応した施工を実施する予定としております。</li> <li>・工事に際しては、十分な安全対策を実施していきます。</li> </ul>
○建設候補地の地盤が不安なので、地盤改良が必要ではないか。	
○工事に際し、土砂災害や水災害など発生しないよう十分な安全対策を講じてほしい。	
2. 建設候補地へのアクセスや利便性について	
○病院が移転することで、通院にかかるタクシー代など個人の経済的な負担が増える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新病院へのアクセスやその利便性の確保については、今後、策定される病院の基本構想・基本計画を踏まえ、交通手段の確保や経済的負担の軽減など新病院への利便性に関して検討いたします。</li> </ul>
○病院が遠くなると、車のない高齢者などは通院が困難になる。	
○病院へアクセスにおいて、バスなど交通手段を確保してほしい。	

## 【一病院化による新病院の建設候補地に関する意見について】

3. 建設候補地が選定された経緯	
○これまで検討されてきた候補地から、なぜ公表された候補地が変わったのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・候補地の選定にあたっては、令和元年度より、土岐市、瑞浪市及びJ A岐阜厚生連の3者で構成された「東濃中部の医療提供体制検討会」にて、協議を重ねてきました。</li> <li>・候補地が中間地点とする場合、両市から候補地を提案し協議することとしていましたが、瑞浪市には土岐市境付近に400床規模の新病院を建設する適地がなかったため、やむを得ず候補地を出していません。</li> <li>・令和2年3月「第9回東濃中部の医療提供体制検討会」で、候補地は両市の中間地点を基本とすること、さらに一部事務組合の設立に向けた準備会を設置することも確認されました。</li> <li>・検討会において選考された地点のほか、適地調査委託により専門的な見地から候補地を検討したところ、新たな候補地が示され、2地点を比較した結果、新たな候補地が最適地とされました。この調査結果をもとに設立準備会（令和2年10月）において検討を行い、新たな候補地である土岐市肥田町浅野地内を選定しました。</li> </ul>
○瑞浪市から候補地が提案されなかったのはなぜか。	
4. 市民への周知	
○2病院の統合について、瑞浪市民に十分周知がなされていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一病院化の議論については、平成29年度から始まった東濃中部の医療提供体制検討会の資料及び議事概要は、第1回より両市ホームページに掲載しており、さらに令和元年度以降の医療提供体制検討会や医療提供体制審議会では、一般の方の傍聴を可能とし、市民への周知を行ってまいりました。また、両市議会においても一般質問の回答において、一病院化の経緯をご説明させていただいております。</li> <li>・瑞浪市におきましては、令和元年度の市長と語る会（地域懇談会）にて医療提供体制について、現状と再編、新病院の説明をし、ご質問に対し回答しております。令和2年度は、コロナ禍により市長と語る会（地域懇談会）を中止しましたが、瑞浪市ホームページに懇談会資料と事前に地域からいただいた質問と回答を掲載しております。しかしながら、市民への周知の不足とのご意見をいただきましたので、瑞浪市におきましては、3月中に新たに市民向けの説明会を開催する予定としております。さらに次年度においても、市長と語る会などで意見交換を行ってまいります。</li> </ul>
○市民に発信するだけでなく、しっかりとした状況説明と意見交換をしてほしい。	
5. 審議会における審議の進め方について	
○新病院の建設候補地の審議のみに終始していることに疑問がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで「地域医療構想における東濃中部の医療を考える研究会(3回開催)」(H28.4~7)、「東濃中部の医療提供体制検討会(9回開催)」(H29.9~R2.3)により、東濃中部の医療提供体制のあり方について十分検討してまいりました。その結果、公設民営による一病院化とすることで方針が確認されたことから、設立準備会において業務委託による専門的な観点を踏まえながら、建設候補地が選定されました。さらに経済界、高齢者世代、子育て世代など多方面の方々からのご意見を伺うため、審議会にて建設候補地に関して議論していただきました。</li> </ul>
○市民の意見を反映した、建設的な意見交換ができる場となることを期待している。	

## 【一病院化による新病院の建設候補地に関する意見について】

6. 一病院化の再検討	
<p>○なぜ、土岐市立総合病院と東濃厚生病院を統合する必要があるのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化に伴う人口の減少や医師の確保が困難な状況が続くことなどにより、現状のままではともに経営が立ち行かなくなり、両市から総合病院がなくなることが懸念される状況にあります。そのため、土岐市立総合病院と東濃厚生病院の一病院化は、地域の医療資源を集約し、二次医療サービスの提供と、将来にわたる地域医療の確保をめざすものです。</li> <li>・土岐市と瑞浪市の共同設置により両市が参画することで、公立の病院として主体的に地域医療に関わることができます。</li> </ul>
7. 東濃厚生病院の存続	
<p>○必要な診療科が受診できる総合病院として、東濃厚生病院を残してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに建設予定の病院は400床程度の規模を想定しており、大規模な病院とすることで、現在、東濃厚生病院や土岐市立総合病院が有していない診療科の設置などが期待できます。</li> <li>・新病院の設置は、医師を派遣する大学の医局などに対して大きなアピールになるとともに、医師からも働く場として選ばれる病院となるなど、医師の確保に繋がるものと考えております。</li> </ul>
8. 東濃厚生病院の跡地利用	
<p>○東濃厚生病院の跡地利用について、市民へ情報提供してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瑞浪市としては、多くの市民が受診している状況から、J A岐阜厚生連に対し、クリニック機能など一次医療機能の継続や、福祉・介護施設等としての活用を強く要望しているところです。</li> </ul>
9. 市のまちづくり	
<p>○駅周辺部再開発、総合文化センターや図書館の移設等と絡めて病院移転を考えてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東濃中部を一つの医療圏域と捉えた医療提供体制を構築する必要があることから、新病院の建設場所は両病院の間地点としたもので、駅周辺部再開発等に合わせて建設する考えはありません。</li> </ul>
<p>○病院移転に伴い、病院周辺の買い物客が減少し、消費が減少することが懸念される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅南エリアは、地権者による市街地再開発事業の検討が進められています。また、駅北エリアは市有施設の再編対象となっている公共施設を集約し複合施設を整備することで、瑞浪駅周辺全体の活性化に繋がるものと考えております。</li> <li>・新病院の設置には一定の期間が必要で、それまでの間は土岐市立総合病院との間で機能分担を行いながら病院運営は行われるため、直ちに通院患者等が減ることはないと考えます。ただし、瑞浪市としては、J A岐阜厚生連に対し、医療、福祉・介護施設等として活用していただくよう強く要望しております。</li> </ul>

## 【一病院化による新病院の建設候補地に関する意見について】

### 10. 新型コロナウイルス感染症対策に関連して

○コロナ禍で病床が逼迫している中で、病床の削減が行われることは心配です。

・東濃地域は、病床はあっても医師をはじめ医療スタッフが不足しているため、対応できない現状もあると聞いています。新病院は、新型コロナウイルス感染症に対応できる医療スタッフの確保につながり得ると考えています。

多くの意見をいただきまして、誠にありがとうございました。